

コンパニオン・アニマル（イヌ）が高齢飼育者に与える 社会心理学的効果について

河原真衣^{1)*}・八城 薫²⁾

1) 桜美林大学大学院国際学術研究科

2) 大妻女子大学

The Socio-Psychological Effects of Companion Animals (Dogs) on Elderly Caregivers

KAWAHARA Mai^{1)*}, YASAHIRO Kaoru²⁾

1) Graduate School of International Academic Research Studies, J. F. Oberlin University Graduate Division

2) Otsuma Women's University

目的

コンパニオン・アニマル（イヌ）が飼育者に与える社会的効果は、先行研究によって知見が一致していない部分もあるが、高齢者にとってイヌの与える社会化促進効果は有用なものとなり得るという知見がある。本研究では、コンパニオン・アニマル（イヌ）が高齢飼育者に与える効果について社会心理学的側面から探索的な研究を行った。

方法

本研究では、コンパニオン・アニマル（以降、CAと称す）と同伴で入居できる介護付き老人ホームに入居中の高齢者（以降「施設入居者」）7名、内訳は70代女性（イヌ飼育者）2名、80代男性（犬飼育経験者で現在は非飼育者）、80代女性（ネコ飼育者）1名、80代女性（非飼育者）1名、90代女性（非飼育者）1名、加えて、家族と生活している70代女性（イヌ・カメ飼育）1名（以降「自宅飼育者」）、介護付き老人ホームの職員2名（以降「施設職員」）を対象に、半構造化面接によるインタビュー調査を実施した。

質問内容は、自身の氏名とCA名、インタビュー当日の行動、基本的な1日の行動、毎日の習慣や趣味、CAの性格や特徴、施設や地域の高齢者向けのイベントの参加頻度、参加したいイベントについて、CA同伴イベントや動物介在イベントへの参加意欲などであった。なおインタビュー時、「ペット」や各CAの名前を用い、CAに関する質問に偏らないよう注意した。最後にイベント参加に関する質問を行なったが、

これはイヌの社会化促進効果検討のためである。インタビュー時間は、施設入居者・自宅飼育者が30分程度、施設職員が15分程度であった。なお施設入居者、施設職員への調査については施設の許可を得て実施し、自宅飼育者の一般高齢者は縁故法により依頼し、同意の得られた方を対象とした。分析には、KH Coder（樋口、2014）を用いた。

結果と考察

まず対象者の語りについて、飼育属性を外部変数としての分析を行った結果、イヌ飼育者は他の属性よりも「一緒」「聞く」がよく出てきた語であった。インタビューでは日常の習慣に関する質問に対して「今ダイエット中なんですけどトマトあげて一緒に痩せてるようなもの。」という語りや、CA（イヌ）の性格に関する質問をした際には「よく〇〇ちゃんは本当に私の話をちゃんと聞いてみたい。」という語りなどがみられた。このことから他の属性に比べてイヌ飼育者は、日常においてCA（イヌ）と「一緒に」何かをしているという意識があること、コミュニケーション場面において、CA（イヌ）によく話しかけていることが示唆された。

そして語と語の共起ネットワーク分析の結果、CA（イヌ）飼育者の語りは、「運動に対する興味・意識」「他の入居者とコミュニケーションをとる場面や話題」「部屋でのCA（イヌ）との生活、CA（イヌ）の行動」「生活習慣」「共生に対する意識」「現在のCA（イヌ）を飼うきっかけ」「自身のCAへの印象」「趣味」の9

* 連絡先：m.kawahara2001@gmail.com

つの要素に分類されると解釈した。一部抜粋すると「運動に対する興味・意識」の要素では、CA（イヌ）について性格や特徴に関する質問をした際に「○○ちゃん太りすぎないようにね、私も気をつけるからあの元気で痩せるように頑張るからねって言うてるのね。」という語りがみられた。「他の入居者とコミュニケーションをとる場面や話題」の要素では、入居者同士でCAについての話題が出るか質問した際に「あの体操の時に（省略）○○ちゃんがお散歩から帰ってくるときがあるんです。（省略）そのときに少しお話ししますね。」という語りがみられた。「共生に対する意識」の要素では、施設での暮らしについて質問した際に「人の痛みも自分の痛みとして受けたいし喜びは本当に一緒に喜んであげたい。」という語りがみられた。

本研究ではイヌの社会化促進効果検討のためイベント参加に関しての質問を行なったが、分析の結果CA（イヌ）のイベントへの参加促進効果は見いだせなかった。

以上の結果を踏まえて、イヌを飼育することの心理的効果としては、「運動に対する興味・意識」の語り等から健康への動機づけ効果、「共生に対する意識」の語り等から共生意識や責任感の出現する効果が示唆され、社会的効果としては、イヌ飼育者の語りから「聞く」の単語がよく出てきた結果や、「他の入居者と

コミュニケーションをとる場面や話題」の語り等からコミュニケーションの促進効果が示唆された。そして本研究の目的である社会心理学的効果を検討する上で、心理的効果と社会的効果の両側面を考慮した場合、CA（イヌ）が与える健康への動機づけ効果がイベント参加という社会化促進効果を生み出している可能性や、共生意識が生まれる効果、第三者にCA（イヌ）が与える心理的効果によるコミュニケーション促進効果が示唆され、社会化促進効果においては間接的に効果が示唆された。

謝辞

本研究の実施にあたり、ご多忙にもかかわらず快く調査にご協力頂いたウェルハイム八王子の施設長川口航平氏及び職員の方、入居者様、インタビューにご協力いただきました方々に感謝申し上げます。

主要引用・参考文献

- 金児 恵. (2006). コンパニオン・アニマルが飼主の主観的幸福感と社会的ネットワークに与える影響. 心理学研究, 77 (1), 1-9.
- 樋口耕一 2020『社会調査のための計量テキスト分析 ―内容分析の継承と発展を目指して― 第2版』ナカニシヤ出版.